

## すまいの部会の報告 (平成27年10月～平成28年2月)

部会開催 平成27年10月2日、11月6日、12月4日  
平成28年1月15日、2月4日

### 1 DVDの活用状況 (平成27年10月～平成28年2月)

	相談時利用	研修等利用	個人・団体貸出	複製
障がい福祉課	0	2 (※)	2	0
しゃきょう	0	0	1	0
春日苑	0	4	1	0
かすがい	0	0	2	0
JHN まある	0	0	1	0
あっとわん	0	0	0	0
中部大学 向研究室	0	3	0	0
合計	0	9	7	0

#### 【感想等】

- ・施設内の様子・利用者の様子がよくわかりました。グループホームでは利用者の充実している姿が印象的でした。
  - ・ヘルパーステーションとして障がい者の方のお一人での生活とヘルパーのかかわり方について学びたくお借りし、当事務所の勉強会で使用させていただきました。障がい者の方が支援を受けるに至る経緯や思い、またヘルパーがどこまで支援すべきか参考になりました。
- (※) うち1回は、12月に春日井市の新規採用職員70名に対し、障がいのある人への理解を深めることを目的とした研修を実施し、その中でDVDを活用した。

### 2 検討した内容

#### (1) すまい方の事例確認

- ・23の事例が集まる。  
身体3事例 知的4事例 精神12事例  
身体・知的2事例 身体・精神1事例 知的・精神1事例
- ・検討した事例で不明な点やさらに詳しく聞きたい点の再確認を事務局が行い、その結果を元に検討を行った。
- ・事例集に掲載する事例の選出をした。

## (2) すまい方の事例の取りまとめについて

※別添「いろんな暮らし\*モデル事例」の記入用紙を参照

- ・すべての事例を出すわけではないため、どの事例を掲載するか選定する。その後個人を特定される恐れのある事柄について具体的にどう変えるのかを検討することとする。
- ・個人情報への配慮は必要となるが細かい情報まで載せた方が分かりやすい。
- ・年齢は20代、30代という記載にする。
- ・家族構成や性別等、事例の本質に関係しない部分については変更することもある。
- ・個人が特定できるような病院名等の固有名詞は、事例ごとにA, B, C…とする。
- ・支援区分は掲載する。
- ・イニシャル、疾患名は掲載しない。

## (3) 意見交換 ～障がい者が市営住宅を借りるときの現状について～

実施：平成27年12月4日

出席：住宅施設課市営住宅担当者・すまいの部会部会員・事務局

- ・一般の倍率は11.8倍である。(平成26年度)
- ・家賃は世帯の状況によって変わるが、一番高い物件で5.9万円である。
- ・市営住宅は県営住宅の考え方に準拠しているので連帯保証人に関し身元保証団体の利用は認められておらず、親族の方、知人の方が保証人になることを条件にしている。
- ・家賃滞納が許される期間は3ヶ月であるが、その期間を過ぎていきなり退去ということにはならない。

### ア 障がい者の入居について

- ・障がい者がいる世帯は99世帯あり、障がい者が世帯主の世帯もあるが、その世帯数までは把握できていない。
- ・障がい者枠では身体障がい者を想定して1階やエレベーターのある物件を用意するが、身体的な障がいのない方であればどの物件に応募しても構わない。
- ・難病の方も申込み要件として該当するが、単身世帯での申し込みの場合は医師の診断書が必要となるため、それを見ての判断となる。
- ・知的障がいがあっても、支援を受ければひとりで暮らせる障がい者はいるので、入居可否の判断の際には「支援付き」を加味して判断するよう、今後検討していただきたい旨部会から意見を伝えた。
- ・障がい者への理解がない住人の方も多く、また障がいではなくても生き難さを抱えた方もおり管理する側は難しい。
- ・上記のような場合は支援センターと連携して対応できるケースがあるかもしれない。
- ・支援付きの障がい者の入居などの時は支援センターが援助するが、何でもできるわけではないので、福祉関係者の役割を知ってもらうことも必要である。

イ すまいの部会としての住宅施設課との意見交換会の振り返り

- ・障がい者＝身体障がいというイメージがあり、それ以外の障がいへの配慮はあまり無いように感じた。
- ・差別解消法にも関わる問題であると思う。
- ・身元保証団体（や会社）の利用は不可等、市営住宅に住むまでには大きなハードルがあるように感じた。
- ・住宅施設課の方に障がい者生活支援センターの存在を知ってもらえたためこれを機に連携が取れるとよい。
- ・上手く住めるようになったという事例から支援センターが関わることで助かると思ってもらえたら良い。
- ・全体の1割位に障がい者が住んでいる世帯があると分かり詳しく知りたいと思った。
- ・今後も継続的に関わりを持っていきたい。

### 3 今年度の活動と今後について

- ・23事例という多くの事例が集まりその検討に時間を要した。年間計画では「意見交換」や「研修」の実施が挙げられていたが、実施できたのは意見交換のみであった。
- ・今後、事例集の完成と、障がい者の多様なすまい方について理解を深めていくために事例集を活用しての研修などを実施していく。
- ・住宅施設課との意見交換では、障がい者＝身体障がい者のみといった認識で、他の障がいの認知度が低いように感じられた。また、身寄りのない人にとって身元保証団体が活用できないことの不便さが推測される。
- ・障がいの周知のためにも、今後も住宅施設課をはじめ必要と思われる方々と意見交換などをしていくことが必要と思われる。